

二〇二三年度

和歌山信愛高等学校

入学試験

国語 (六〇分 一〇〇点)

受験上の注意

- 一 この問題冊子は、1ページから23ページまであります。
始まりのチャイムが鳴ったら、確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題用紙と解答用紙の両方に記入しなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。
- 四 終わりのチャイムが鳴ったら、問題冊子の上に、解答用紙を
開いたまま裏返して置きなさい。

〈解答は、句読点や記号も一文字分と数えて記入すること〉

受験番号

【一】 次の文章は、約二十年前に書かれた青木保たもの『異文化理解』の一節です。これを読んで後の問いに答えなさい。

グローバリゼーションとは何かとその内実を考えてみると、少なくともそれを表面的に覆っているのは、現代アメリカの作り出した大衆文化あるいは生活様式です。高層ビルもハンバーガーも、二〇世紀アメリカの経済力によって作り出されたものであり、それが世界中に発信され、どの国の大都市にも波のように押し寄せているのだと思います。

では、グローバリゼーションは「アメリカ化」と同じことかというところ、^①必ずしもそうとは言いません。グローバリゼーションを構成する製品、**A** ヘッドホンステレオなどは日本製品が多く、ビデオやコンピュータの多くもアジアの国々で生まれていて、それが物資のグローバリゼーションを推し進めているところがあるからです。それにファストフードもマクドナルドやケンタッキークイーン・フライドチキンばかりでなく、ラーメンや回転寿司すしや牛丼も世界に大きく広がっています。

アメリカ大衆文化の表現形式は、特に二〇世紀後半の世界の国々には非常に受け入れられやすいということがありました。いくらアメリカが政経軍事にわたる超大国といっても、また文化の産業化の力が強大と言っても、その文化そのものに魅力がなければ世界に広まるわけではありません。ハリウッド映画やポピュラーミュージック、コカ・コーラやハンバーガーなどの食文化をふくめたライフスタイルなどが、世界の人々に好まれるから広まるわけです。

また^②アメリカの大衆文化の象徴のように言われているファストフードは、和食あり中華ありの日本にも広く受け入れられ、最近では中国の北京などでも話題をよんでいます。それはファストフードという形式が現代の都市生活に非常に適合する形式だからです。忙しい時代になり、核家族になって、特に女性が働くようになると、仕込みに時間がかかる料理は家庭で簡単につくるわけにはいきません。必然的にファストフードが入り込んでしまうのです。**B** 店構えは、どのチェーンのものも非常に雰囲気がおおいです。照明も明るく、看板も大きくてわかりやすい。受け入れやすさはそういうところにもあるわけです。開かれた明るさがそこにあります。それはまた^{*}ステレオタイプ化されたとはいえ、アメリカ文化の特徴でもあります。

また、^③ハンバーガーもハンブルク・ステーキをパンにはさんだものですから、その一部はドイツに由来し、アメリカの食文化固有のものではありません。一昔前に、アメリカの人類学者が「二〇〇パーセントアメリカ的」という論文を書いて、「アメリカ人が朝起きて寝るまでの生活文化を見ると、一〇〇パーセント外国から来たものばかりである。ということは、一〇〇パーセントアメリカ文化とは一〇〇パーセント外国からの寄せ集めにほかならない」という皮肉な^aシテキをしました。アメリカ的なものというと、非常に西欧的に感じられるのですが、西欧だけでなく、世界中の様々な文化を取りこみ中和してうまく作り上げているものでした。だからこそ、アメリカ文化はまったくの異文化圏にも受け入れられやすく、世界に急速に広がっていくことができるのだと思います。

ですから、現在のグローバリゼーションは、アメリカ化という言い方による「文化侵略」批判や、アメリカ文化産業が世界を植民地化しているという、いわゆる「文化帝国主義」批判ですまされるわけにはいかないのです。やはり、大変^bフヘン的なメッセーヂを発する魅力的な大衆文化とその産物を世界に提供するからこそ、急速に広がっているのだという事実はひとめなければならぬでしょう。「文化侵略」や「文化帝国主義」を言うなら、むしろ受け入れるほうを問題にしなくてはいけないと思います。もし、製品や商品に魅力がないようなら誰も買わないからです。

^④アメリカの消費経済とそこに広まる文化のグローバリゼーションの波には、抵抗しがたいものがあります。かつてインドのムンバイ（旧ボンベイ）では、人民党のコカ・コーラ追放運動なども起きました。C、いまでは^{*}デリーにもファストフードの店があります。フランスのようにアメリカ映画の輸入本数を制限するなど、アメリカの「文化侵略」に対する防衛策を講じる国もあります。しかし、そういう抵抗も効果的ではありません。パリでは、ハリウッド映画からファストフード店まで人が^c群がっています。

こうしたグローバリゼーションを政治権力で禁じることは難しくなるでしょう。というのは、情報化の時代には、様々なメディアによって、どこに何があるのか誰でも簡単に知ってしまうからです。そして皆が同じものを求めてしまうのです。D そう

いう強い消費欲望を起こさせるところが、アメリカ的な文化のグローバリゼーションの強みなのです。

ただ、この⑤文化のグローバリゼーションによって、やがて世界の文化が均質化してしまうのかというと、それも違います。戦後、憲法や学校制度に始まり、アメリカ化の影響を受け続けた日本ですが、アメリカから見るとまだ「日本異質論」が出てくるくらい、彼我の文化の違いはdイゼンとして消えていないのです。確かに、食生活やファッション、経済や社会の制度までグローバリゼーションによって変わるものはたくさんあります。英語が情報通信の第一言語として世界を覆っていることは事実としても、タイ語もネパール語も、もちろん日本語も、しっかりと存在しています。アメリカ的なファストフード支配の傾向はあっても、回転寿司もあり、和食の伝統は残っています。それが消え去るとも思えません。こういう事実を見ても、私はそれぞれの文化がすべて。画一化してしまうとは思いません。しかし、他方で⑥それも楽観的に過ぎるかもしれないと感じたりもします。実は、こうしたグローバル化の勢いは、人々に自文化への関心を薄めさせ、子どもや若い世代に伝統や歴史についての関心を失わせないまでも、弱くさせる働きがあるのも事実だと思っからです。私は、実のところ、日々こうしたグローバル化の中に身を置くことが、限りのない画一化へと、人々をかり立ててゆくのではないかとさえ危惧しています。

本来は、文化のグローバリゼーションと自文化はかならずしも対立関係にはなく、文化のグローバリゼーションも受け入れながらも、自文化は自文化として存在しているというあり方になるのが一番良いのではないのでしょうか。アジアの都市で似たようなタイプのビルばかり見ると、ちよつと待ってくれ、どうにかしてほしい、もつとそれぞれの文化のあやが建築に示されるような都市づくりをしてもいいのではないか、という気持ちを強く持つことはさげられません。まことに個性なき現代アジアの都市づくり、高層ビル化、そして生活文化の画一化は残念なことに感じられますが、いまのところこの傾向は止めようがないありさまです。

注 ※ ステレオタイプ化…ものの見方が固定化すること。

※ デリー…インドの大都市。

問一 〓線部 a く e のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。(漢字は楷書ではつきりと書くこと)

問二 本文中の **A** く **D** に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア つまり イ しかし ウ しかも エ たとえば

問三 〓線部①「必ずしもそうとは言いません」とありますが、これはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア アメリカから生まれるものは魅力的であり、世界中の人々の心をとらえることができるから。
イ グローバリゼーションを推し進めている物資はアメリカ以外の国から生まれるものも多いから。
ウ アメリカの文化産業の力は強大であり、その力で世界中にアメリカ製品を広げることができるから。
エ アジアから生まれた素晴らしい製品がアメリカの製品を完全に駆逐し、世界化しているから。
オ アメリカ以外の様々な国から生まれるものが、アメリカ製品をしのごく性能を持つ場合が多いから。

問四

——線部②「アメリカの大衆文化の象徴のように言われているファストフード」とありますが、このファストフードが都市生活の中で受け入れられるのはなぜですか。その理由として**適当でないもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ファストフードが映画や音楽と共に生み出すライフスタイルそのものに、大きな魅力があるから。
- イ ファストフードは、核家族化が進む忙しい時代の都市生活者のライフスタイルに合ったものであるから。
- ウ ファストフードが持っている開かれた雰囲気、世界の人々に馴染みやすいものになっているから。
- エ ファストフードを経営する企業の力が強大であり、人々の好みに関係なく拡散しやすくなっているから。
- オ ファストフードの店舗は、看板も大きく照明も明るく、人々が受け入れやすいものになっているから。

問五

——線部③「ハンバーガーもハンブルク・ステーキをパンにはさんだものですから、その一部はドイツに由来し、アメリカの食文化固有のものではありません」とありますが、この事実から筆者が主張しているのはどういうことですか。それについて説明した次の文の（ ） に当てはまる言葉を本文中から三十字で抜き出して答えなさい。

現在、アメリカ文化とよばれているものは、もともと（ ）三十字（ ）であるから、急速に世界中に広がっていくことが可能である、ということを書いた筆者は主張している。

問六 —— 線部④ 「アメリカの消費経済とそこに広まる文化のグローバリゼーションの波」とありますが、これを国家が力での方的に禁止するのが難しくなるのはなぜですか。本文中の言葉を使って六十字以内で説明しなさい。

問七 —— 線部⑤ 「文化のグローバリゼーションによって、やがて世界の文化が均質化してしまうのか」といって、それも違います」とありますが、筆者は「文化のグローバリゼーション」の流れの中で、「世界の文化」がどのような形で存在することを望んでいますか。「く」という形。」に続く形で、本文中から四十字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問八 —— 線部⑥ 「それ」とありますが、これは何を指しますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア グローバリゼーションが進んでいく中で、変わっていく文化がたくさんあるという状況。
- イ アメリカ人の持っている、日本の文化と西欧の文化は全く異なるものだという見方。
- ウ グローバル化が進行しても、様々な文化が画一化されることはないだろうという考え。
- エ 日本の文化は戦後、外国、特にアメリカの文化を模範として進歩してきたという事実。
- オ 世界的に西欧化が進む一方で、日本の文化はますます発展していくだろうという予想。

問九 〰〰〰線部「グローバリゼーションとは何か」とありますが、筆者がこの文章で考えている「グローバリゼーション」とは

どういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア アメリカのような国によって生み出された大衆文化や生活様式が、世界中に拡散していること。
- イ 日本をはじめとする工業先進国の便利で安価な製品が、世界中で必要とされていること。
- ウ アメリカ以外の有力なアジアの国々の魅力あふれる食文化が、世界中に広がっていること。
- エ 高層ビルやハンバーガーなど魅力あふれる文化が、アメリカの都市部を中心に栄えていること。
- オ 世界の文化がアメリカ的なもの一色に染まっていくことで、異文化をむしろ失ってしまうこと。

【二】 次の文章は、小野寺史宜（かみのり）の『ホケツ！』という小説の一節です。高校のサッカー部で補欠の大地（ぼく）は、両親が離婚

した後、病気で母親を亡くし、母親の姉である未婚の伯母と一人で暮らしています。高校三年の夏が近づき、進路に悩む中、父親からの突然の連絡、伯母には恋人がいることが発覚、サッカー部の中にも問題が多発……。そんな中、高校最後の大会を迎え、負けたら引退という試合が始まりました。前半が終わり、○対一で劣勢。以下はそれに続く場面です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

ハーフタイムのミーティングでは、今の感じでいい、と監督の五十嵐が言った。尚人に意見を求められたので、ぼくも、今のを続けなければじき点はとれるよ、と言った。根拠はない。が、無責任に言ったつもりもない。

みんなで円陣をつくり、「みつ高フアオフアオ」のショートバージョンをやる。レギュラーの選手たちはピッチに出ていき、ぼくはベンチに座った。

後半が始まって五分もしないうちに、翼がフアウルで相手の9番を倒し、それで与えたフリーキックを9番自身に直接決められた。ぼくも得意な左四十五度、デルピエロ・ゾーンからだ。

あああああ、という **I** の声上がる。でも、今のプレーはしかたない。ペナルティエリア内でのフアウルと判断され、PKをとられてもおかしくなかった。それどころか、後ろからのフアウルということで、翼がレッドカードを出される可能性もあった。むしろイエローですんでたすかったと考えるべきなのだ。

で、たぶん、みんなも実際にそう考えた。○対二になっても、みつば高の選手たちは落ちこまず、足を止めなかった。

そして後半十五分のあたりで、悟が魅せた。ドリブルで相手陣に切り込み、エース貴臣にラストパスを出すと見せてボールを持ちかえ、利き足ではない左でシュートを打ったのだ。

不意を突かれたキーパーの反応が遅れ、ボールはゴールへ飛びこんだ。

よしっ！とベンチの全員が立ち上がり、手を叩いて飛び跳ねた。

やっぱりうまいんだな。と、ちよつと **II** した。悟が決めたのもまたうれしかった。今やウチのエースは貴臣だが、ぼくら三年のエースは悟なのだ。

正直に言う。

① 中学のとき、最後の大会の試合ではチームの敗退を願った。願ってしまった。かなり遠かった試合会場に足を運ぶのが面倒だったからだ。ひどい話だが、そう思った。思ってしまった。だって、そもそも試合に出れないし。

でも、今はそんなことはない。勝ちたい。勝ってほしい。何なら冬の国立にも行ってほしい。

② もしかするとベンチは、コンビニ弁当や冬の缶コーヒーみたいに、温める必要があるのかもしれない。今はそう思う。本当に、そう思う。

敬吾のセントリングからの悟のきれいなボレーシュートはワクを外れる。オフサイドぎりぎり飛び出した郷太のヘディングシュートはキーパーのファインセーブに遭う。意表を突く貴臣のミドルシュートは惜しくもクロスバーを叩く。

この試合に負けると、今日で部活も終わる。明日からは、ただ受験生としての生活が始まる。レギュラーだとかそうじゃないだとか、そんなことは意味を持たなくなる。だとしても、レギュラーじゃないという意識そのものはなくならないだろう。多少薄まりはしても、なくなりほしだいだろう。

やっぱり国立大学を受けよう、と思う。現役で受かってやろう、と思う。

学費が高い安いじゃない。伯母さんに迷惑をかけたくないか、そういうことでもない。チャレンジしてみよう。二軒の店をつぶした父は、それでもめげずにチャレンジした。その血はぼくにも流れているはずだ。

あと一点がとれない。でもこちらもとらせない。ピッチではそんな攻防が続く。全体のレベルは低いかもしれないが、攻守が目まぐるしく変わる。見応えのある試合だ。郷太や修介がシュートを打つ。利美や尚人がシュートを防ぐ。

負けてはいるが、五十嵐は動かない。まあ、それはそうだ。ぼくらのようなチームでは、レギュラーとレギュラーじゃない者の力の差が大きい。レギュラーがケガをしたり、度を越えて疲れたりしてない限り、交代はさせない。

そして、残り十分。五十嵐がやっと動いた。というか、ありえない動き方をした。

「大地、アップしろ」

「はい？」とつい聞き返す。

「アップだ。二分で頼む」

「いや、あの」

「早く！」

あわててベンチから立ち上がる。どうしていいかわからない。その場に立ち尽くしてしまう。

「大地、アップ！」と、五十嵐の背後にいる真乃が急かす。

「でも」とぼく。

「でも何だ」と五十嵐。

「Xまだ勝てますよ」

「ああ。勝てる。だから、お前を出す。お前を出せば、みんな、燃える。最後の切札だ」

「そんな」

本気なのか冗談なのかよくわからない。いや、まちがいに冗談だろう。

「尚人にも言われたんだよ。大地のフリーキックを使わない手はない、トーナメント戦では絶対に必要だって。確かにそうだ。いい位置でフリーキックをもらえたら、お前が蹴ってこい。ズバンと一発決めてこい」

「ぼくのは、ズバンというよりは、ふわりという感じですけど」

「ああ。そうだな。ふわりと一発決めてこい。大地らしいのを決めてこい」

それでも動くこうとはしないぼくに、五十嵐は言う。

「なあ、いいか。勘ちがいするなよ。これは **III** でもなんでもないぞ。勝ちをあきらめたからお前を出すんじゃない。追いつきたいからお前を出すんだ。貴臣と交代でな」

「え、貴臣なんですか？ 交代」

「そうだ。貴臣と交代で大地が出る。貴臣もそのつもりでいる。だから初めからあんなに飛ばしたんだ。あいつが倒れる前に、早くアップしろ」

「ほら、大地、アップ！」と真乃が再び急かす。

ぼくはスパイクのヒモを結び直し、ベンチの後方へまわる。屈伸、伸脚をやり、短い距離のダッシュを繰り返す。緊張してる余裕もない。試合を見に来ているはずの伯母さんに目をやる余裕もない。

アップがすむと、ボールがピッチの外に出るのを待って、五十嵐が主審に声をかけた。

「10番アウト！ 13番イン！」

駆け戻ってきた貴臣と、パチンと手を合わせる。

「頼みます！ 勝てますよ、ウチら」

貴臣にそう言われ、いや、頼まれても、と言いつつもそうになるが、そこはこらえて言う。

「ういっす」

そしてピッチに駆けこんだ。

タッチラインをまたいだだけで、見え方が変わる。風景が変わる。敵味方合わせたほかの二十一人が同じ平面に立っていることを実感する。とてもじゃないが、^③森は見れない。慣れていないぼくは、一本の木さえ、見れないかもしれない。

スローインでプレーが再開され、ぼくはやみくもに駆けまわる。システムの変更はない。ぼくが入るのは、そのまま貴臣のポジションだ。

あのうまい10番に代わって入ったのだからそこそこやるだろうと思ったのか、ぼくにマークがつく。あ、それ、必要ないですよ、と言ってやりたくなる。^④ まあ、言わなくても分かるだろう。残り七、八分でも。

悟から二度パスがきて、二度ともとられた。パスをカットされたのではない。ぼくが持ったボールを、とられたのだ。

でも悟が懲りずにくれた三度目のパスは、ダイレクトで修介にはたくことができた。それがたまたまいいパスになり、修介はシュートを打った。が、ボールはキーパーにキャッチされる。

「ナイスパス、大地！」と修介に言われる。

後輩からの呼び捨てが何とも心地いい。

「大地〜！」という声がピッチ外から聞こえてきた。

女性の声。若くない。真乃や桃子や未来ではない。

たぶん、伯母さんだろう。

伯母さんのそこまでの大声は、初めて聞く。さすがは姉妹。声も似てるよ、母と。

宮島と田崎。苗字みよなんてどっちでもいい。

ぼくはこの先も、^⑤ 伯母さんの甥おいつ子息子でいたい。

はつきりと、そう思う。

伯母さんと、そして伯母さんが好きになった田崎さんと、一緒に暮らしたい。

たまには、父の店にイタリア料理を食べに行きたい。そのときは、一人じゃなく、伯母さんと二人で行きたい。田崎さんと三人でもいい。

その代わり、父にも母の墓参りに行ってほしい。別れた妻のそれをするのはどうも、というなら、ぼくの母のそれとして、行ってほしい。

試合に出慣れてないから、時間の経過がわからない。残り一分か二分か。それとももうアディショナルタイムに入ってるのか。入ってるなら、アディショナルタイム何分とベンチや主審から声がかかるだろう。

悟が相手のセンターバックに倒される。ペナルティエリアのすぐ外で。

主審の笛が鳴り、みつば高にフリーキックが与えられる。

よしっ。直接決めちゃえ、悟。

と思っただら。

その悟に言われた。

「直接きめちゃえ、大地」

「え？」

「ここなら大地だ。ほら」とボールを渡される。

ここ。左四十五度。デルピエロ・ゾーン。

「いや、あの、でも」

「行こうぜ、大地！ 入れちゃえ！」と背後から言われる。

尚人だ。

「見せてくれよ、大地」と哲。

「練習どおり打ちゃ入るって」と敬吾。

モタモタしてる時間はない。自分でボールをセットする。落ちつけ、大地。助走の距離をとる。マジで落ちつけ、大地。

警戒した相手が壁をつくる。その数、五枚。無理もない。向こうにしてみれば、ここで振りだしに戻されるわけにはいかない。「近い近い」と主審に注意され、五枚の壁が二歩後ろに下がる。

それでも壁はかなり高い。デカイディフェンダーにデカイフォワードまで加わるから、五枚すべてが高い。キーパーには、逆に見にくいだろう。

ぼくにもシュートコースは見えない。一番右の壁の頭を越えて、落とす。それしかない。で、ぼくはストンと落ちるボールを蹴れるのか？

蹴れない。

ぼくにできるのは、慎重にコースを狙うことだけだ。

ただ、思いどおりに蹴れば、入るかもしれない。

「大地、狙え！」「決める、大地」「頼むぞ、大地！」

助走を開始する。

ぼくがこれを外したところでみんなが文句を言わないのはわかってる。でも決めたい。

相手が警戒してる。そのことがわかる。向こうはたぶん、ぼくをフリーキックの名手だと思ってる。この時間に出てくるんだからスーパーサブだと思ってる。周りのみんながかけてくれた声を聴いて、ぼくが直接ゴールを狙ってくると、そう思いこんでる。

ゴールを決めたい。ぼく自身が決めなくてもいい。チームとして、決めたい。一パーセントでも確率が高いほかの選択肢があるなら、ぼくはそちらを選ぶ。⑥ それこそがぼくだ。

郷太が素早く動き、マークを外すのが見える。ゴールを狙わず、ぼくは郷太が走りこむ先にボールを蹴る。走りこむ郷太の頭に合わせる。そこへなら、確実に蹴れる。自信がある。

相手にしてみれば予想外のところへボールが飛ぶ。ゴールには向かわない。でもふわりと浮かんだそのボールが落下する先に郷

太がいる。

郷太はフリーでヘディングシュートを打つ。

どんぴしゃり。

そのボールは、ゴールポストに当たる。当たり、ゴールの内側じゃなく、外側へとはじかれる。うわああ、と大きな声があちこちで上がる。ピッチ内でもピッチ外でも上がる。

「まだまだ。まだ時間はあるぞ！」と尚人が言い、みんなが自陣に駆け戻る。

「大地、悪い。ボール、スゲえよかったのに」と郷太が言う。

「惜しかったよ。もうちよ이었다」と返す。

本当に、惜しかった。しかたない。今日の郷太は、貴臣と同じぐらい走りまわって疲れているのだ。

このままいけば、部活は終わる。残りの数分で、まさかの同点。そして、奇跡の逆転、なんてことがあれば、まだ続く。

ピッチを走りながら、^⑦ ぼくはふとベンチを見る。貴臣は立って試合を観てるので、さっきまでぼくが座ってたところは空いてる。

高校に入ってから二年と四カ月。ずっとベンチウオーマーだったけど。

楽しかったなあ。部活。

いやいや、そんなこと言っちゃいけない。

前に伯母さんも言ってた。

負けは、実際に負けたときに認めればいいのだ。

あと数分。 Y 勝つよ ぼくらは。

問一 本文中の **I** **III** に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 感謝 イ お悔み ウ お情け エ 油断 オ 落胆 カ 感動

問二 ——— 線部①「中学のとき、最後の大会の試合ではチームの敗退を願った」とありますが、その理由を三十五字以内で説明しなさい。

問三 ——— 線部②「もしかするとベンチは、コンビニ弁当や冬の缶コーヒーみたいにも、温める必要があるのかもしれない」とありますが、これは「ベンチウオーマー」という補欠を表す言葉を少し皮肉った表現です。ここに込められている「ぼく」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分は補欠で試合に出ているため気持ちには冷めているが、表面的にはチームに合わせておこうという気持ち。
イ 自分は補欠で試合に出ているが、大会に参加するためには自分たち補欠だって必要なんだと開き直る気持ち。
ウ 自分は補欠で試合に出ているが、体を冷やさないように、準備運動をしておかなければならないという気持ち。
エ 自分は補欠で試合に出ているが、チームの勝利のためには自分の応援や存在も必要なのだと心が高ぶる気持ち。
オ 自分は補欠で試合に出ているため冷静でいるべきだと思っていたが、チームと一体になるべきだという気持ち。

問四

——線部③「森は見れない。慣れていないぼくは、一本の木さえ、見れないかもしれない」とは「木を見て森を見ず」という「ささいなことにこだわると本質を見落としてしまう」という意味のことわざを意識した表現です。では、ここではどのような意味を表していますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア いらついで、乱暴なプレーをしてしまうということ。

イ 緊張で、状況をしっかり把握できないということ。

ウ 不安で、顔をあげることもできないということ。

エ 不感で、味方も信用できないということ。

オ 目が悪くて、周りがよく見えないということ。

問五

——線部④「まあ、言わなくても分かるだろう」とありますが、どのようなことが分かるのですか。説明しなさい。

問六 —— 線部⑤ 「伯母さんの甥おひっ子息子でいたい」とありますが、そこにこめられた「ぼく」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 伯母さんは「ぼく」に甥っ子であってほしいと思っているが、「ぼく」は伯母さんの息子でいたい。

イ 母親のように育ててくれたことに甘え、本当の母親のように思っていることを後悔している。

ウ 母親代わりとして育ててくれているが、「ぼく」は伯母と甥という関係を崩したくない。

エ 実際は伯母さんなのに、「ぼく」の母親のようにふるまうことを反省してほしい。

オ 本当は伯母と甥という関係であっても、「ぼく」にとっては、母親と変わらない。

問七 —— 線部⑥ 「それこそがぼくだ」とありますが、「ぼく」は自分のことをどのような選手として認識していますか。「〽選手。」につながる形で三十五字以内で答えなさい。

問八 —— 線部⑦ 「ぼくはふとベンチを見る」とありますが、「ぼく」がこの行動をとった理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 長い間その場所に座ってきたが、腐らず前向きに取り組んできた自分を振り返り、感慨深く思ったため。

イ 自分が引退した後は、だれが補欠になるのだろうと、その席に座ることになる後輩を心配したため。

ウ 自分が実力を発揮して活躍していることにみんなが気付き、応援しているかを確認したいと思ったため。
エ 長い間その場所に座っていた時間は、とにかく無駄でしかなかったという空^{むな}しさを強く感じたため。
オ 今まで試合に出られなかったことはおかしいと、周囲に認められなかった日々を腹立たしく感じたため。

問九 〜〜線部X「まだ勝てますよ」、Y「勝つよ、ぼくらは」に表されている「ぼく」の気持ちとして最も適当なものを次の

中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 追加点を取られ早くも勝負を捨ててしまった監督に対して、うとましく思う気持ち。
- イ 周囲の人から認められるために、最後まであきらめないという姿勢をアピールする気持ち。
- ウ 自分が出場することが、反対に負けへとつながってしまうという不安な気持ち。
- エ 相手は強いのでどうせ試合には勝てないと思っているけれど、ひたすら強がる気持ち。
- オ どんな状況であつても自分は常に冷静で戦局を判断することができるかと誇示する気持ち。
- カ 少し自信を手にし、これまでよりも前向きな姿勢で勝利を目指そうとする気持ち。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

《文章Ⅰ》

ものを引き延ばいて、**時失ふ者**ありけり。人の**※早苗植**うるころ、種ほどこしてけり。X**葉月**のころ、**※早稲**の穂の出でたるに嵐吹きてければ、花散りぬと嘆くを、あまりにも急ぎするはつたなし。わが稲はこのころ**a植**多にしかば、嵐の**①わざ**はひにもあはずと、人に**②たかぶりけり**。人の刈り収むるころ、少しばかり穂の見えたるが、はや霜の置きてければ、みな枯れぬ。「今年は**Y**いと早う霜の置きしなり」とて、**③年**をのみ**つみ**罪して、いまだ悟らざりしとなり。

注 ※早苗：苗代から田に移し植えるころの稲の苗。

※早稲：早い時期に実る品種の稲。

(松平 まつだいら 定信 さだのぶ 『花月草紙』より)

《文章Ⅱ》

※世に従はん人は先づ**※機嫌**を知るべし。※ついで**悪**しきことは人の耳にも逆らひ、心にも**違**ひて、そのこと成らず。bさやう

の折節^{きぶせ}を心得べきなり。(中略)されば真俗につけて、必ず果たし遂げんと思はんことは、機嫌をいふべからず。とかくの※もよひなくとも、足を踏みとどむまじきなり。

注 ※世に従はん人：世の中に順応して生きる人。

(吉田 兼好『徒然草』より)

※機嫌：時機。頃あい。潮時。

※ついで：物事の場合。

※もよひ：用意。準備。

問一 〰️線部 a 「植ゑ」、b 「さやう」をそれぞれ現代仮名遣いに直し、**すべてひらがな**で答えなさい。

問二 〰️線部 X 「葉月」、Y 「いと」の現代語訳として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

X 「葉月」

| | |
|---|------|
| ア | 旧暦六月 |
| イ | 旧暦七月 |
| ウ | 旧暦八月 |
| エ | 旧暦九月 |

Y 「いと」

| | |
|---|-------|
| ア | さらに |
| イ | やはり |
| ウ | 思いがけず |
| エ | たいへん |

問三 ――線部①「わざはひ」の具体的な内容を、十五字以内で説明しなさい。

問四 ――線部②「たかぶりけり」とはどのような気持ちを表していますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 高揚 イ 自慢 ウ 感激 エ 皮肉 オ 警戒

問五 ――線部③「年をのみ罪して」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 今年是天候がよくなかったからだと、天候だけのせいにする事。
イ もう自分は年老いたからだと、自分の年齢だけのせいにする事。
ウ 今年はやはりうまくいかなかったと、強い罪悪感を抱いている事。
エ 今年を経験を生かして来年はがんばろうと、前向きに取り組もうとする事。
オ 月日があつという間に過ぎたからだと、月日のたつ早さのせいにする事。

問六 《文章Ⅰ》中の「時失ふ者」の発言は「今年はいと早う霜の置きしなり」以外にもう一方所あります。その最初と最後の五字を答えなさい。

問七 《文章Ⅰ》《文章Ⅱ》を読んで、信子さんと愛子さんが話し合っています。A B C に当てはまる言葉をそれぞれ現代語で答えなさい。

信子さん … 《文章Ⅰ》の「時失ふ者」は田植えを A にして失敗した人の話が書かれているね。今やらなければならぬことを A にして後悔することは私にもあるよ。

愛子さん … 《文章Ⅱ》では世の中に順応してうまく生きていくためには時機を失わないことが大切だと述べられているね。

信子さん … 最終的には《文章Ⅰ》の「時失ふ者」は自分がどうして失敗したのか気づいて B ね。

愛子さん … 《文章Ⅱ》ではさらに C と思うことは、頃合いを見計らわず、すぐに行動に移すほうがいいと言っているね。

信子さん … なるほど。古文に書かれている昔の人の教えは、現代の私たちに生きる知恵を授けてくれるね。

